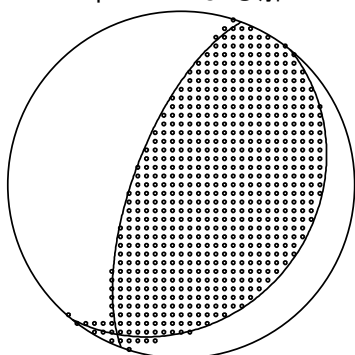


# 11月15日 モルッカ海の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

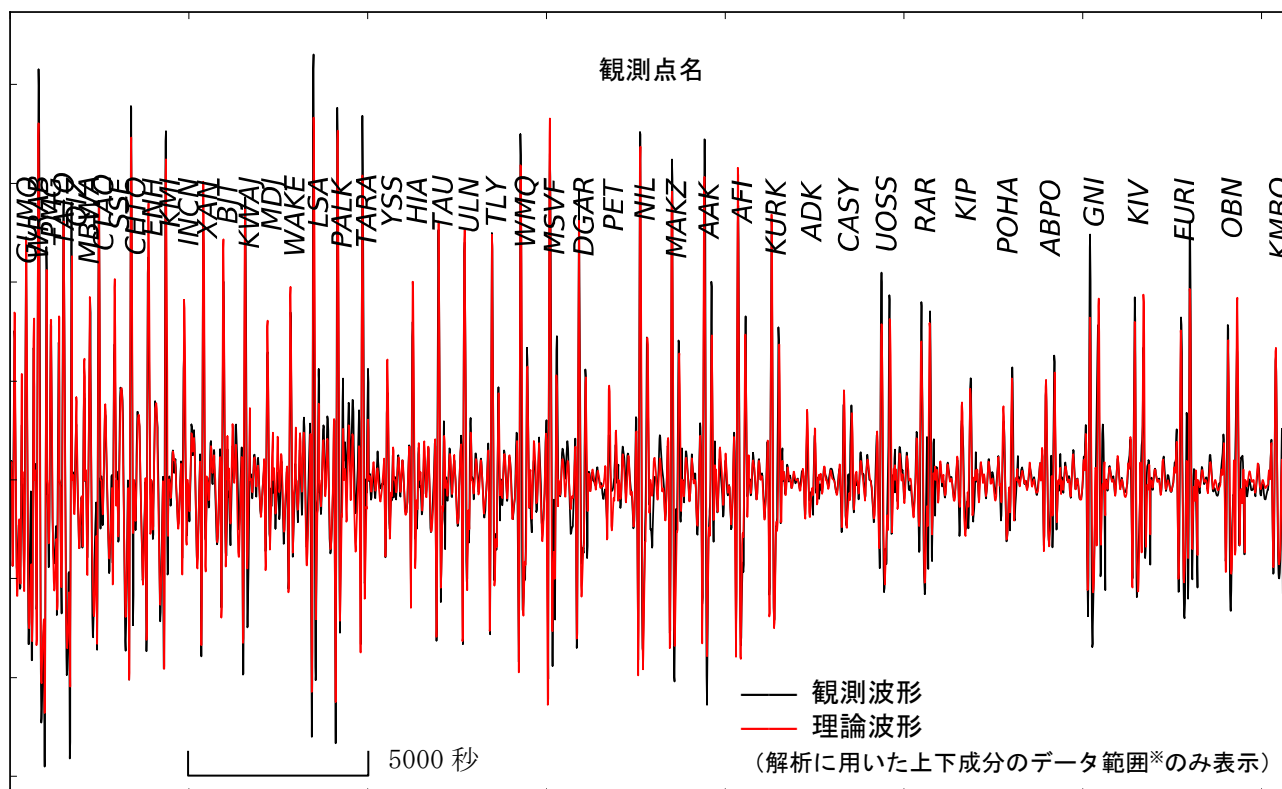


2014年11月15日11時31分(日本時間)にモルッカ海で発生した地震についてW-phaseを用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、 $M_w$ とも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、 $M_w$ は7.1であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源は $N1.8^\circ$ 、 $E126.5^\circ$ 、深さ41kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離 $10^\circ \sim 90^\circ$ までの46観測点の上下成分、13観測点の南北成分、12観測点の東西成分を用い、100~500秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

$M_w$	$M_0$	断層面解1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解2 (走向/傾斜/すべり角)
7.1	$5.68 \times 10^{19} \text{Nm}$	$38.9^\circ / 23.6^\circ / 107.1^\circ$	$200.3^\circ / 67.6^\circ / 82.7^\circ$



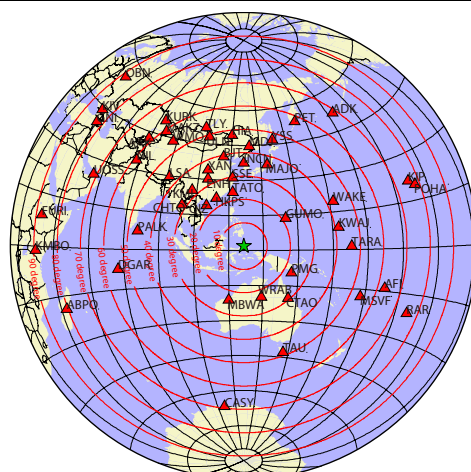
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データにはIRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成